

新年度のスタートを大切に!!

～「ゆめ」や「願い」がかなう教育を～

満開の桜のもと、令和5年度が始まりました。子どもたちも先生方も新たな気持ちで学校生活をスタートできたのではないのでしょうか。

コロナ禍も一段落し、かつてのように通常の教育活動が展開されているのではないかと考えられますが、まだまだ不安を感じている子どもたちや保護者の方々への配慮も忘れないようにしたいものです。

須賀川市の教職員として、常に「子どもを真ん中」に据え、子どもの成長のために何が大切かを考え、保護者の思いや願いに耳を傾け、高い倫理観と教員としての自覚と誇りをもって教育活動に取り組んでいきましょう。さらに、「学校はチーム」であることを忘れずに。独走することなく、情報を共有し、同僚性を発揮しながら爽やかな笑い声が聞こえるような学級経営、学校経営を期待します。

教育研修センター・教育支援センター・すこやか教室

今年度から教育研修センターの施設内に新たに「教育支援センター」が立ち上がりました。昨年度の校長会議において既に説明はされていますが、「すこやか教室」とともに、詳しくは当センターにお問い合わせください。

<スタッフ紹介>

研修センター

・本多淳嗣 ・添田栄美子
・安田柳一 (岩瀬中校長から)

支援センター

・芳賀孝美 (たけのこ園園長から)
・七海千加
・庄司康生 *研修センター兼務
(埼玉大教授から)



すこやか教室

・小宅春夫 ・圓通圭司
・小林美津江 (大東中養護教諭から)



保護者との信頼関係を!!

◇ 子どもたちとの信頼関係だけでなく、「この学校なら、この先生なら子どもを任せられる」という保護者との信頼関係を築いていくことが新学期スタートのこの時期の学級経営には最も重要なことです。お互いの立場を尊重し、謙虚な気持ちをもって対応していきましょう。

①「まず保護者の思いを聞く」

○教師から一方的に話すのではなく保護者の思いを十分に受け止めることです。

②「相手の目を見て話す」

○しっかりと視線を合わせて話すのは人としての基本です。

③「気になることはまず一報」

○声かけや連絡はタイミングが大切、初期対応が肝心です。

④「子どもの良さを伝える」

○子どもの様子をきめ細やかに見とり、その子の良さを伝える努力を怠らないことです。

⑤「具体的な事実で子どもを語る」

○日頃の細かな観察を積み重ねて、抽象的ではなく具体的に事実を伝えましょう。

⑥「子どもが集中できる授業を」

○自分のできる精一杯の学びのある授業を展開しましょう。

⑦「教師としての誇りを持つ」

○姿勢、服装、言葉遣いを常に意識し、「駄目なものは駄目」というぶれない姿勢を示しましょう。自分の言動に責任をもつことが信頼につながります。

4月が順調な教育活動のカギ！



◇ 4月は新年度のスタートであり、教師も子どもも、新たな気持ちで一年間頑張ろうと思う時です。この前向きな気持ちが続く4月を学級づくりに生かしていきたいものです。この機を逃さず、授業づくりを学級づくりとリンクさせて1年間の教育活動の基礎をつくりましょう。

☆ 学年やブロックの教師間で意見交換を行い、基本的なルールを学年として共有することから始めましょう。そのうえで4月は粘り強く、繰り返してルールの定着を図り、友達と安心して楽しく関わることができることを実感させることが大切です。子どもたちの思いや願いに耳を傾け、子どもたちとともに学びの集団としての学級づくりに努めたいところです。

☆ 須賀川市が目指す教育の最重点スローガン<授業と授業研究を第一優先にした学校づくり>のもと協同的な学びで支える自己存在感や自己有用感のもてる学級経営に努め、教師も学ぶ姿勢を持たなくてはなりません。小中一貫教育推進のためにも、**学年全体で基本的な情報を共有し、組織の力を生かして、チームで9年間の中の今を考えた指導を4月から進めましょう。**

新採用教員・新任常勤講師研修会から



4月11日（火）に令和5年度の新採用教員・新任常勤講師研修会が行われました。新年度がスタートしてわずか一週間ですが、すでに自分の課題に気づき、精一杯頑張っている17名の先生方の姿を拝見することができました。「今年度こそは～を頑張ろう」「こんな〇年生になりたい。」と新たな夢や希望を胸に抱いている子どもたちの期待に応えられる教員、学び続ける教員であってほしいと願います。



<どんな教師を目指しますか？> 野原学校教育課長より

The mediocre teacher tells.

The good teacher explains.

The superior teacher demonstrates.

The great teacher inspires. (教育学者 ウィリアム・アーサー・ワードの言葉から)

「出勤したら出勤簿に押印すること、教科書を使うこと、教員になっても勉強（研修と修養）を続けること・・・など学校は法律や法令のもとに教育活動が行われている。しかし、授業の構成や展開は教師の創意工夫（自由）が許されている。だからこそ、教師は授業が本分であることを自覚してほしい。

<ぜいたくな1年でした。> 須賀川市立第一小学校 高野 彩音先生



先輩教員として須賀川市立第一小学校の高野先生の体験発表がありました。

「頑張った分だけ子どもたちは応えてくれる。」と学ぶ気持ちをもって計画的に進めてきた1年間を話してくださいました。

結びには、「やって。聞いて。見て。学べる贅沢な1年でした。支えられていることに感謝しています。」という言葉がありました。学校はチームです。みんな支え合い成長していきましょう。